

専門医研修計画概要書 記載例 1

消化器病学会では、消化器病専門医は内科あるいは外科専門医の見識を基本として、消化器領域の疾患と病態の理解および専門性を持った医療の提供をするべき医師像として提言されている。当院は急性期の二次救急指定病院であり、豊富な消化器疾患や急性腹症の症例を経験することができる。実際の研修にあたっては、消化器病学会専門医・指導医および消化器外科学会専門医の指導のもと、初心者および専門医の育成を目指す。そして社会が求める医療レベルと人格を有する消化器病専門医を世に輩出するのが肝要と考えている。なお教育の際は消化器病学会専門医研修カリキュラムに従い、到達レベルを意識しながら指導をしていく。

当院での研修における基本目標は以下のとおりである。

- ・病歴聴取、理学所見採取を適切に行うことができる。
- ・主訴から想定される疾患をもれなく列記できる。
- ・血液生化学検査や尿検査を実施し、その解釈から治療方針を立てる。
- ・種々の画像検査（Xp、CT、US、MRI など）を適切にオーダーし、結果の評価をして以後の方針を策定する。
- ・医療的介入（投薬、処置、教育指甜など）の技術を身に付ける。
- ・ピットフォールに対する十分な知識と回避能力を策定する。
- ・すべての医療行為について、適応か適応外かを判断する能力を養う。

基本目標を踏まえたうえで、消化器病学会専門医研修カリキュラムに則った教育を行う。当院の消化器センターでは消化器内科および消化器外科の混合病床を有しており、各種メディカルスタッフも充実している。すなわち消化器病疾患の診療を、垣根を意識せずにスムーズに進めることが可能であると同時に、チーム医療や病診連携の遂行も可能である。

定期的に消化器内科と消化器外科の医師による合同カンファレンスを実施し、適宜院外からも講師を招聘して講演会開催や勉強会なども行う。学会発表や論文作成の指導も随時行う。

専門医研修計画概要書 記載例 2

関連施設として研修3年での専門医取得を目指す。

当院研修以前に消化器科としての勤務実績があれば、はじめから病棟や外来の担当医として勤務しながら研修を行う。消化器科としての実績がなければ、当初は上級医とマンツーマンで指導を受けながら、消化器科としての業務の概要を覚えてもらい3~6ヵ月後を目標に病棟、外来の担当医となり研修を継続する。

また認定条件にもなっている、学会主催のポストグラデュエイトコースや、教育講演会の出席のみならず、他の学術集会への出席や発表の機会も可能な限り設ける。

以下に年次ごとの到達目標を掲げる。

・1年目の到達目標

- I. 一般的事項
- II. 診断・治療法、手技
 - A. 血液、尿、糞便
 - B. 消化管 内視鏡検査
 - C. 肝、胆、膵、腹腔 超音波検査、腹水検査
- III. 疾患 消化器疾患のいわゆる common disease の経験

・2年目の到達目標

- II. 診断・治療法、手技
 - B. エックス線検査
 - C. 肝、胆、膵、腹腔 内視鏡的逆行性胆管膵管造影、CT、MRI、肝生検
 - D. 治療 内視鏡的止血術、内視鏡的粘膜切除術、HP除菌療法、癌の化学療法 等
- III. 疾患 比較的稀な疾患の経験

・3年目の到達目標

- II. 診断・治療法、手技
 - D. 治療 食道静脈瘤硬化療法、食道静脈瘤結紮術、粘膜下層剥離術、ERCP 関連手技
- III. 疾患 消化器疾患のいわゆる common disease に対し高度な相談に応じることができる